

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ 今年の残暑..... 1	● 講習 2 3
● 第10回勉強会「英語の教え方教室」報告 1	● 授業の玉手箱 「よく使われる英語表現を」..... 4
● 教員免許状更新講習 2011 報告 2	● 書籍紹介 『道を歩けば前置詞がわかる』..... 4
● 講習 1 2	● 編集後記・第11・12回勉強会案内 4

巻頭エッセイ

今年の残暑

中垣 芳隆

今年の夏は節電要請に協力し、例年より暑い夏を過ごされた方も多いことと思いますが、9月の声を聞くと、さすがに秋の気配が感じられました。

さて、今年の夏もいろいろなことがありました。スポーツ界は高校野球を始めとして、ナadeshiko Japan や室伏選手の活躍で明るい話題を提供してくれました。反面、政治の世界では、まるで年中行事のように首相の交代劇がありました。ある週刊誌には、毎年交代する状況を揶揄して、「そのうち季語になるのでは」とありましたが、世界の中での日本の立ち位置に不安を覚えずにはおられません。

ところで、政治といえは8月22日の「大阪維新の会、教育基本条例の概要発表」とある新聞記事に目を奪われました。記事によれば、特徴的事項として、

- ・「教育についてこれまで政治は過度に遠ざけられてきた」とし、教育基本条例案の前文で「政治が適切に教育行政における役割を果たす」と明文化した。
- ・知事や市長が学校の実現すべき目標を設定。教育委員が目標を実現する責務を果たさない場合は、議会の同意を得て罷免できるとした。
- ・教職員を5段階で評価し、最も低い評価が2年連続で続いた場合は分限処分、同じ職務命令に3回連続で違反した職員は分限免職とする。

などありました。ここまで読んだ段階では、いずれの地方自治体でも程度の差こそあれ見受けられる、教育に口を挟みにくい雰囲気に対する首長さんの一石かなと思ったのですが、記事を読み進めると、普段は温厚な大阪府の教育長が次のように正面から反論されている。

- ・大阪ほど知事と教育委員会が議論している地域はない
- ・条例がなくても教育環境を整えることはできる。
- ・教育委員の罷免や首長が学校目標を定める規程は、適法性について疑問がある。

これはただ事ではないぞと、早速、インターネットで大阪府教育基

本条例（素案）なるものを引き出してみると、9章53条からなり、53条には「この条例は、府の教育に関する最高規範であって、この条例に反する一切の府における条例、規則、要綱、指針等は無効である。」と記されています。

個々の条文についてはともかく、この条例が万に一つも可決、具体化された時には、大阪の教育はこれまで築き上げてきた貴重な財産を失ってしまうであろうとの危惧を抱かせます。

識者のコメントも賛否両論、いずれにしても9月の府議会の動向には目を離せません。

第10回勉強会「英語の教え方教室」報告 2011(平成23)年7月16日(土)

「英語を教えて28年…私の授業点描」
大阪府立阿倍野高等学校 喜多 千穂 教諭



- はじめに
今年28年目、1年1年が新しい、新鮮、全く違うもの見え方が違ってくる
- 教材とどう向き合う
 - 自主教材の作成
 - ESL教科書との出会い
 - 「教科書と格闘する意識」との出会い（他）
 など多岐に亘って喜多先生にお話しいただき、フロアーの皆さんと意見交換を活発に行った。
フロアーでの意見交換の一つとして、
「先生は何を一番大切に考え、授業に臨んでいるか」に対し、
 - ・生徒が自分仕様の英語の学び方を身につけて欲しい
 - ・生徒がやって楽しかったと思って欲しいと考える
 - ・生徒に英語の文章から様々な知識を得てもらいたい
 - ・卒業しても英語を自分なりに学んでいこうとする姿勢を生徒に築きたい
 - ・生徒に一定の成果が生まれるようにがんばりたい
 - ・単にスキルとして教えるのではなく、言葉は文化であることを踏まえ、その文化による考え方の違いを意識させたい。
 - ・自分の内面に興味を持つようにさせたい。それが全体の中の自分を認識し、自然に英語に取り組ませたい。 などありました。



特集

- 講習1：コミュニケーション・ルール：その基盤となる概念を考える ——
- 講習2：体験型ワークショップ：発音指導の見直しと音読指導の方法 ——

講習1 8月8日(月) 9:30 ~ 13:10 中井 弘一

① ディベートの考え方
— 論理的に説得することの意味とそれに必要なこと —

14:00 ~ 16:10 東條 加寿子

② 異文化間コミュニケーションの考え方
— 違いを理解し表現すること —

社会や経済のグローバル化の急速な進展に伴い、単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」の育成がより重要となっている。ただそれには、やみくもに発信するのではなく、それぞれの言語のコミュニケーションを行うためのルールを身に付けておく必要がある。

そうした能力の開発のため、ディベートというコミュニケーション活動が昨今よく取り上げられている。本講座でも一つのテーマとして、「ディベートの考え方—論理的に説得することの意味とそれに必要なこと—」を取り上げ、「ディベートとは何か」という基本概念の理解をもとに「ディベートは面白い」という興味関心の喚起を促す指導を考える。

コミュニケーション・ルールのもう一つのテーマとして、「異文化間コミュニケーションの考え方—違いを理解し表現すること—」を取り上げる。英語でのコミュニケーションには異文化の視点が不可欠である。この講習では、異文化間コミュニケーションの諸要素（高・低コンテクスト、active listening, assertive communication 等々）を取り入れた議論・会話活動・メディア理解に取り組む。



本講習1では、32名の先生が受講された。受講後の皆様からの感想のごく一部であるが掲載する。

文部科学省指定様式講習評価報告

4段階評価基準 4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)
3:だいたいよい(満足した・成果を得られた) 2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった)
1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

I. 本講習の内容・方法についての総合的な評価 … 3.6

II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価 … 3.6

受講者コメント

- ディベートの概念は知識としてのみ、知っているだけでその奥にあるコミュニケーション・ルールまでの理解にはいたっていませんでした。新しい考え方を知ることができて、本当にためになりました。テキストも工夫が凝らされていて良かったです。ありがとうございました。
- とても盛りだくさんの内容で貴重な一日となりました。中井先生、東條先生のご熱意を強く感じました。私自身、またいろいろ勉強して今後の授業に生かしたいと思えます。今後も、先生方に教えていただければと思います。ありがとうございました。
- 実際に授業の中で使えそうな話題が盛りだくさんでした。他の講習も受けての率直な感想は、講師の先生が準備してくださった資料が非常に丁寧であるというものです。メモをとることに必死で中身を十分に把握することができなかつたという思いが全くありませんでした。また、カラーでわかりやすいという点

も素晴らしかったです。受講生の立場に立った講習でした。また、講師の先生が、この講習にものすごく時間をあけて準備してくださったのがとてもよく分かりました。そういうものが感じられる熱意のこもった素晴らしい講習でした。大阪女学院大学という大学のあり方というものを感じさせられました。ありがとうございました。

- 内容が盛りだくさんで、先生方の熱心さがとても伝わってきました。ディベートは苦手な分野でしたので、あえて挑戦してみました。中井先生に頭が固いと連発されてしまいましたが、まさにそのおりで、いかに柔軟な考えを持っていないかということ、すなわち一方的にしか物事を見られていないかを痛感いたしました。「考える」ということ、それが私自身に訓練されていないと思いました。先生がおっしゃってくださったように、まさに「さあ、ディベートしましょう」ではなく、それまでに積み上げておかなければならないことがたくさんあることに気づかされました。ありがとうございました。
- 非常にエネルギーが豊富な中井先生の話術に引き込まれました。時間の割にボリュームが多かったので、もっと詳しく伺いたかった部分がさらっと流れてしまったのが残念です。ペアワークでは余り活動的ではなかったのですが、もっと頭を柔らかくしないといけないと痛感しました。ありがとうございました。
- 今までの講習の中で、とてもアットホームでパワフルな先生方のものと、あつという間に終わりました。とても素晴らしい準備と内容で感謝します。
- 「ディベートの考え方」は大変楽しい講習でした。言葉を選ぶこと、考える習慣、様々な角度から考えること、相手の言葉を聞くこと、表現すること、改めて大切にしたいと思います。「異文化間コミュニケーション」はもっと時間があればと思いますので、さらに興味をもって勉強していきたいです。時事英語も大変良かったです。もっと詳しく知りたいと思いました。有り難うございました。
- 「英語をやるなら女学院で！」と楽しみにしていました。今日はアツという間に時間が過ぎ、とても勉強になりました。講座の中身も勿論ですが、私は個人的にお二人の先生のパワーポイントの使い方に感動しました。ものすごく準備もいることでしょうが、とてもわかりやすかったです。公立中学で、そんなことはないかもしれませんが、いつか私も視覚に訴える授業をしたいです。実はそれが一番勉強したいです。時事英語にも興味がありますので、紹介いただいたものを是非のぞきたいと思っています。どうもありがとうございました。
- 学校によっては、なかなか生徒が落ち着いて授業を受けられないところもあり、その中でどういう方法で授業をしていくかが課題になっています。ディベートにしても、いきなりその形を求めるのではなく、出来るところから始めればできるのではないかと感じ、トライしていこうと思いました。異文化間コミュニケーションでは、意識していないことを意識させていくことで見えてくるものがあると感じました。
- 非常に役立つ講義でした。自らが抱える課題に対する答えを本日の講習で得ることが出来ました。視点を変えてもの(ごと)を見るのがいかに大切かということを学べたことが何よりも良かったです。今回の講座で得たことを少しでも2学期以降の授業改善に活かせるようこれかもしっかりと勉強していかなければと強く思いました。本当に楽しく、内容の濃い講座だったと思います。中井先生、東條先生本当にありがとうございました。
- 最初は教員免許更新講習という理由だけで必要に迫られて申し込みました。高校が母校なので、久しぶりに女学院で勉強できるという嬉しい気持ちもあったのですが、授業内容についていけるのが不安でした。しかし中井先生も東條先生も具体例やクイズ、ビデオ映像を取り入れてくださり、難しいテーマを

わかりやすく講義してくださいました。堺の教育現場では、なかなか落ち着いて学習に取り組める環境ではないのですが、今日受けた講義で子どもたちに、why? と投げかけをたくさん行い活かせるところは活かして授業に取り組んでいきたいと思ひます。中井先生のクイズ形式の資料、是非使わせていただきます。中井先生、東條先生、長い時間ありがとうございました。

講習2 8月9日(火)

9:20 ~ 12:40 夫 明美

- ・日本語と英語の母音体系の差異を理解することから発音指導へ
- ・日本語と英語の子音体系の差異を理解することから発音指導へ
- ・日本語には見られない「音のつながり」の理解と教科書分析

13:30 ~ 14:30 東條 加寿子

- ・リスニングの向上につながる音声の情報処理としてのシャドウイング

14:40 ~ 16:10 中井 弘一

- ・音読の目標と動機付け：音読によるテキストの理解

英語の音声面に焦点を当てた体験型ワークショップを行う。

午前の部は、教員の発音の向上と発音指導の見直しについて講習を行う。昨今、小学校に英語教育が導入され、発音指導が求められる場面が多くなっている。それに対応する素地を形成するため、英語における音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキストを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習、及び発音指導へのヒントについて考える。

午後の部は、「音声を介した表現や理解」に焦点を当て、文章全体のディスコース・レベルでの音読指導の方法について講習を行う。「大きな声が出ない、すらすらと読めない」など音読については嘆きをよく聞く。それには、音読とは何なのかを再認識する必要がある。そこで、リスニングの向上につながる音声情報処理としてのシャドウイング練習の基本と工夫や音読の魅力、理解を深めるための音読の目標と動機付けを oral interpretation などの活動を通して考える。



講習2は、33名の先生が受講された。受講後の皆様からの感想のごく一部であるが掲載する。

文部科学省指定様式講習評価報告

- 4段階評価基準 4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)
3:だいたいよい(満足した・成果を得られた) 2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった) 1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)

I. 本講習の内容・方法についての総合的な評価 … 3.8

II. 本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価 … 3.8

受講者コメント

- ・本日の三種類の講習はどれも授業にすぐに取り込める内容で、大変勉強になりました。特に中井先生の準備してくださった資料は、2学期が始まりましたら、すぐに使いたいと思っています。ありがとうございました。
- ・三人の先生方の熱い指導に、今後へのエネルギーをいただきました。<午前中>説明が多く、もっと練習する時間がほしかったです。タイトルから予想していたのとは少し違いましたが、とても勉強になりました。<午後>シャドウイングは改めて教えていただけたら、仕組みや基本的な方法を理解でき、大変良かったです。1時間と言わずにもっとお話を聞かせていただきたかったです。笑顔やお話の仕方から中井先生のお人柄や生徒への思いが伝わってきました。様々なアイデアもとても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・発音、シャドウイング、音読の指導には日頃から大変興味を持っています。是非とも受講したい講義でした。これからの授業に活かしていきたいと思ひます。中井先生の温かく楽しい授業は時間を忘れてしまいます。盛りだくさんで時間が短いのが残念でした。大阪女学院の講習を選択してよかったです。ありがとうございました。
- ・大変盛りだくさんの内容で、三名の講師の方が、どれだけ熱意を込めて準備してくださったか、よくわかり感謝しております。特に発音の基本については、自分自身が学生の頃や後の研修等で習いはしたものの、はっきりと区別をつけながら、あるいはポイントを正しく身につけて発音できているかと言えば、決してそうでなく、苦手なところは克服できないままです。今回の講習で、様々な点での熱意をもう一度取り戻し、授業にしっかり取り組みたいと思ひました。ありがとうございました。
- ・生徒を教える立場として、一応の知識は身につけているつもりでも、環境の変化、情報、教材等の発達により常に学ばなければならないことは多くあり、特に発音指導、音読指導は大切に楽しくあるべきという趣旨に沿った刺激的でためになる講義でした。ありがとうございました。勉強します。
- ・普段、自分の唇の形を意識して、発音するのにこれほどの時間をかけないので今日はとても勉強になりました。音と音のつながり方、脱落等についても日頃はそんなに意識していなかったので、学習できてよかったです。午後からのシャドウイングの講義はこれまででよかったので、いいヒントになりました。中学校でも試してみたいと思ひます。中井先生の講義は、盛り沢山すぎて、この時間内で受けるにはちょっときつかったです。もし機会があれば次回はいっとじっくり、ゆっくり受けたいです。この2日間どうもありがとうございました。
- ・発音指導では、生徒がよくひっかかる音のつながりを教科書本文を通して、勉強させていただいたことがよかったです。発音記号を本文の下に標記してあったのも工夫されていて指導しやすいと思ひました。あとは、参加教員の発音のチェックに時間もあればよかったです。シャドウイングに関しては、理論というよりは体験型で展開していただきたかったです。最後の音読の授業は、もっと時間があればいいなと思うくらいあつという間でした。いろいろな指導法を紹介してくださってありがとうございました。
- ・午前の講習は、講師の先生の徹底したプロ意識に圧倒されました。これまで疑問に思ってきたものの、ALTに尋ねてもあまり要領を得なかったことにも明快に答えてくださって、今後の指導に活かすことができると思ひます。午後のテーマではシャドウイングはできれば実施してみたと思ひいたので、とても参考になりました。音読指導に関しては、これほどまでの資料を用意してくださった熱意に頭が下がります。とても楽しい講習でした。どの先生もすばらしく、本当にありがとうございました。教師としての姿勢も学ばせていただいたと感激しています。
- ・native speaker でない日本人英語教員にとって、発音指導は若干、自信のない部分です。今日の午前の研修内容は、大学以来の音声学の授業で、自校での実際の生徒に対するわかりやすい発音指導のとてもよい研修機会となりました。特に、[æ]の音のコツは「目からうろこ」的であり早速指導に利用させていただきます。シャドウイングについても興味深く実践できそうな内容でした。中井先生の研修は、昨日同様、内容が濃すぎてアップアップしそうですが、先生の熱意と創意工夫に触れられただけで価値のある研修でした。また別の機会にも、勉強させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。
- ・今まで他の大学で必修、選択の講習を受講してきましたが、大阪女学院でも講習が一番ためになり、後に活かせるものを得ることができました。Listening, speaking があまり得意ではないので、受講するにはとても勇気が必要だったのですが、受講してよかったですと思ひます。昨日も受講すればよかったです悔いております。有意義な講義ありがとうございました。

授業の玉手箱

よく使われる英語表現を

東條 加寿子

今回は、「英語の授業は英語で」の流れの中で、私たち教員はどのように授業英語を向上させていけばいいのか、ワンポイントで考えてみたいと思います。

コーパス言語学という分野が盛んになるに伴って、言語が場面によって実際どのように使われているのかについての知見が次々に得られるようになりました。単語の辞書的な意味や用法に依存するのではなく、コーパスと呼ばれる膨大な言語データから実際の言語使用例を取り出して、役立てていこうという観点です。私たち教員の目的に照らし合わせて言えば、「授業」という場面で「どのような英語表現」が頻繁に使用されているかを調べて、それらの表現を意識的に用いることによって、授業で用いる英語を向上させていこう、という観点です。

英語の授業で用いられる言語表現を見てみると、私たちが無意識のうちに使っている表現が頻繁に用いられていることが確認でき、「やはりそうなのか」と自信がつけたり、私たちがあまり使ってこなかったもので明日からすぐに使えそうな表現を「採集」できたり、となかなか有益です。こういった言語データから得られる授業英語の特徴を理解して、意識的に授業で用いることは、英語の授業を改善していく具体的な第一歩ではないでしょうか。

授業英語のいくつかの表現を紹介する前に、“lexical bundle”という概念をおさえておきたいと思います。Lexical bundle は 1999 年ごろから Biber という研究者らによって盛んに用いられるようになった用語で、「単語の束」(筆者訳)といったところでしょうか。これが「頻繁に用いられる単語群」ということであれば、慣用句、すなわちイデオムを連想する読者も多いことと思います。しかし残念ながら lexical bundle はイデオムとは異なります。例えば、bear in mind というイデオムは意味的にも文法的にも(動詞句として)完結していて remember という別の単語で置き換えることができますが、lexical bundle は通常、意味的・文法的には不完全な単語の塊であるといわれています。一方、使用頻度の観点からいえば、イデオムが必ずしも高頻度で用いられるわけではないのに対して、lexical bundle は統計的に高頻度で隣り合わせになる組み合わせを示します。使用頻度が高い表現ですから、活用の度合いが高いこと間違いなし、という強みがあります。

それでは、授業英語にみられる lexical bundle には一体どのようなものがあるのか、終わりにいくつか例文^{注)}を示したいと思います。

[(教師の) 意図やスタンスを示す]

What I want to do is to show you some of the examples.

Before I do that, I want to talk about

[(生徒への) 指示や期待を示す]

I want you to take a look at

If you look at the picture, you can find

So you need to go to the library.

You should be able to find the subject of the sentence.

For those of you who came late. . . .

[その他]

We have six more days before the exam or something like that.

As shown in this picture,

That's one of the reasons why. . . .

注) 下線部が lexical bundle。例文は、研究成果として報告されている lexical bundle を用いて筆者が作成した。

書籍紹介

『道を歩けば前置詞がわかる』

宗宮喜代子・石井康毅・鈴木梓・大谷直輝著
(2007) くろしお出版 1,470 円

タイトルから分かるように、空間のイメージを利用して「五感を駆使して」英語の前置詞の使用法を身につけようとする一冊です。

たとえば、運転中の車がガス欠になったときに、

The gas tank is empty. There is no gas left.

というように「いかにも英作文」的な表現も成立しますが、頻出前置詞を含む表現 I am out of gas. とすると、こなれた表現になります。

また、自分が洋服店の店員さん、または友人・恋人などと一緒に買い物に言ったシチュエーションを想定して、I would like to recommend this pink dress.

とやや堅苦しい表現も十分に成立しますが、ここでも前置詞を味方につけて

Pink looks good on you. You look good in pink.

と表現すると、主語が「ピンク(のドレス)」「あなた」という要素も加わって、「似合っている」と勧められた方の気持ちがグッと動くかもしれません。

章が進むにつれて、発展的な要素や、映画やアニメなどの言語文化的な側面も取り込んで「決めの一語」(原文ママ)も紹介されていますので、楽しみながら読み進めていけるとと思います。

(夫 明美)

編集後記・第11・12回勉強会(案内)

東日本大震災から半年以上経ちました。9月21日は、未だ日々の生活に苦勞されているところへ台風15号が追い打ちをかけました。被災者の皆様の resilience を祈るばかりです。私たちは私たちに前に進んで行きたいと思います。第7号をお届けします。(ひ)

第11回勉強会予定

平成23年10月15日(土)

最近「ネイティブ感覚の～」というタイトルの英語の参考書などがたくさん出版されているが、日本語感覚で英文を考える生徒や学生は絶えず、たとえば、「その本を買うのを忘れた」を “I forgot buying the book.” とする。そうした日英の言葉の違いの例を示しながら、英語のおもしろさを再認識する勉強会としたい。



第12回勉強会予定

平成23年11月26日(土)

「PISA型学力の育成」を学校教育目標としている大阪府教育センター附属高等学校の森下先生に、PISAの考えを基に、5技能(4技能+考えること)を統合したコミュニケーション能力の育成し、3年後の目標として英語で自分の思いを伝える力を育てる英語授業づくりやその取り組みについて、授業ビデオ等を通してご紹介していただきます。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373
Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojcedu/ttc>
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp